

岐阜県 下呂市

所在地 岐阜県下呂市森 960(下呂市観光商工部観光課)



（アドバイザー派遣申請の背景）

地域が持つ魅力の有効活用と協力体制の構築を

下呂市では平成 22 年度に「下呂市観光計画」を策定しており、その計画に基づいて近年の多様化する観光ニーズへの対応と地域に元気を取り戻すことを目的とした“地域が持つ本来の魅力を観光と結びつける”「着地型旅行商品」の造成を行ってきた。

しかしながら、「マスツーリズム」と「着地型観光」の理念は相反するものであり、「マスツーリズム」の発展と歴史を共にしてきた「下呂温泉」は依然として他の観光地よりもエージェントへの依存度が高いため、現在のところ各地域の魅力的な素材が有効に活用されていない状況であると同時に、地域の経済的な活性化の起爆剤とはなっていない状況である。

平成 24 年度これらの「着地型旅行商品」を採算ベースに上手く乗せ、「下呂温泉」プラスαの魅力として有効活用するためには、「マスツーリズム」と「着地型観光」の共存が必要不可欠であり、エージェントをはじめとした観光事業者による地域への理解と協力体制の構築方法、地域による観光に対して配慮が加味された商品造成等についての助言を頂きたい。

また、地域の魅力を掲載したフェノロジー・カレンダーの作成を予定しており、掲載内容・活用方法等についての助言も併せて頂きたい。

エコツーリズムに取り組む目的	
従来の観光から脱して、新しい地域の魅力づくりを行うため	○
「自然とのふれあい」を志向する旅行者のニーズに対応するため	○
地域の活性化に貢献するため	○
地域資源の保全に対して「来訪者」の意識を高めるため	
地域資源の保全に対して「地元住民」の意識を高めるため	
地域の将来にわたって「自然環境や文化の保全」が特に重要な点だと考えているため	
現在悪化しつつある地域の自然環境や文化の保全に役立てるため	
(その他)	

エコツーリズムの対象となる自然観光資源	
動植物	
動植物の生息地・生育地	
地形・地質	○
自然環境と密接な関連を有する風俗習慣、その他の伝統的な生活文化に係る観光資源	
これから地域資源の洗い出しをするため、地域資源の把握ができていない	○
(主な自然観光資源)	
・御嶽山 ・小坂の滝めぐり ・金山巨石群 ・清流馬瀬川(鮎) ほか	

現在取り組んでいる・取り組もうとしているエコツアーの種類	取組中	検討中
原生的な自然におけるエコツアー	○	
自然の営みにふれる観察会への参加	○	
地球科学的な視点から自然や暮らしとの関わりを学ぶ活動		○
環境教育を主目的とした活動		○
農林業などの体験を通じて自然への理解を深める活動	○	
自然や文化に関する解説を受けながら地域を巡る活動	○	
地域の生活や文化を体験する活動	○	
環境保全のための貢献活動		○
自然の中でゆったりとした時を過ごしながら自然の恵みを体感する活動		○

(現在取り組んでいること)

(取組を検討していること)

アドバイザー派遣の概要

●日時

平成 24 年 2 月 27 日（月）～29 日（水）

●場所

岐阜県下呂市（下呂交流会館、ふれあいセンター）

●エコツーリズム推進アドバイザー

京都嵯峨芸術大学 芸術学部 観光デザイン学科 教授 真板 昭夫 氏

未来政策研究所 主任研究員 比田井 和子 氏

●参加者

下呂市観光計画実行委員会委員、下呂市観光計画プロジェクト委員会委員、

下呂市 他 合計 62 名

●視察およびアドバイスのスケジュール・方法

（1 日目）

平成 23 年度実績報告(各地域)

真板先生の特別講演、ヘルスツーリズム商品造成研修会

（2 日目）

金山地域巨石群視察、研修会

小坂・馬瀬地域合同研修会

（3 日目）

下呂・萩原地域合同研修会

野歩きコース・鳳凰座の現地視察

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

下呂温泉の主流である「マストゥリズム」と各地域が取り組んでいる「着地型観光」について、それぞれが今後の観光ニーズにおいて必要不可欠な要素であることを改めて認識したことにより、相互の連携体制がより一層強化された。

●今後の期待される効果

今回の事業によって“下呂温泉プラスαの魅力づくり”と“観光を利用した地域づくり”(着地型旅行商品の造成)の必要性を改めて認識させられたことにより、下呂温泉と各地域の連携体制が構築されるものと考えられる。但し、そのためには下呂温泉と各地域及び、旅行 AGT と各地域を結び、プロモーション業務や商品造成(コーディネート)に取り組む「ランドオペレーター」的な存在が不可欠であり、平成 24 年度から下呂市観光協会連絡協議会が緊急雇用補助金を活用して実施したいと考える。



(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣を実施して (地域からの声)

●参考となった事項

- ・ 旅行形態は、「マストゥーリズム」と「エコトゥーリズム」の共存という提唱に対して異論もあるが、来客の多様化に向けては、避けては通れない道である。
- ・ 旅行形態は、まさに転機到来といった感じがある。人と違う満足度、差別化が求められている。旅行デザインの時代が到来した。
- ・ 地域力が注目されている。地域の宝とお客さんが満足する商品造成が必要である。
(→ここでいう「地域力」とは、自慢すべき宝・地域振興の名人・地域の知恵袋・わくわくドキドキ感を提供できる人(もの)などを指す。)
- ・ 「宝」は主観的価値、「資源」は目的に沿った手段である。
- ・ 地域ブランド(商品)開発は、人が来ることでイキイキさせて、うれしい思いにさせる。
- ・ 地域全体のストーリーがまさにフェノロジー(生物や食物など自然の営みを基軸とした年間暦等)である。このような有効活用は下呂市内でもすでに取り組んでいることは評価に値する。
- ・ 観光は政治に左右されやすいため、「二戸市宝を生かす町づくり条例」を制定して、観光に対しての姿勢をぶれることなく維持させる。
- ・ 外湯があると街並みはきれいになる。外に目を向けるようになってくるので、必然的にゴミのポイ捨てなどが少なくなってくる。外湯に対しては、どうして必要なのかそのコンセプトが重要になってくる。

(エコトゥーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス)

真板アドバイザー、比田井アドバイザーからの地域へのアドバイス

●マストゥーリズムとエコトゥーリズムの関係

マス・エコを対立させて捉えるのではなく、旅に対するニーズが変わり、旅の形態が変化したなかで、観光地としての魅力を高めるためには何が必要かと考えるべき。地域住民自身による「宝探し」を通じて発掘された地域が自慢とする宝を、地域の人々との関わりのなかで触れあえる仕組み、五感を満足させる商品や仕組みをつくっていくべき。観光によって地域の何を伝えたいのか。



●エコツアー・プログラム開発

各地区とも特色ある自慢の宝をもとにプログラムを開発しているが、もっと深掘りする、あるいは現在のプログラムに加えていくことのできる資源があり、改良/改善の余地について、地区単位でアドバイスを行った。

○資源の深掘りからストーリー化へ

各地区とも特色ある自慢の宝をもとにプログラムを開発しているが、もっと深掘りする、あるいは現在のプログラムに加えていくことのできる資源があり、他の宝との組み合わせによって地域のストーリーをつくることによって、現存ツアーの魅力の向上や、新プログラムの開発の可能性がある。



○各地区間をつなぎ、年間を通じたエコツアー・プログラムの開発

現在作成されている各地区のフェノロジー・カレンダーを集約、また追加し、下呂市全体のフェノロジー・カレンダーを作成、いつ訪れてもエコツアー・プログラムが実施される状況をつくりだしていくことが望ましい。

●ガイド

○ガイド・スキル

インタープリテーションの内容、歩きながらのガイドの仕方などの進行管理など、ガイド・スキルの向上が必要。

○ガイド料金

ガイド料金の設定：現在はガイド一人あたり料金であるが、ツアー、ガイドの質の向上の点からも、ツアー客一人あたりの料金設定のほうがいいのではないか。

●ランドオペレーター機能の早急な起ち上げ

上記のアドバイス内容及び観光地としての魅力の向上と集客の拡大という課題を達成していくためには、旅行ニーズと地域の自慢を擦り合わせて顧客に対応したエコツアー・プログラム商品を作成し、販売・プロモーションから実施まで関わる機能を、下呂市のなかに早急に起ち上げる必要がある。

●地域に対する印象、コメント（メッセージ）

- ・ 観光が主要な産業である地域だけに、市民、行政、観光協会が非常な危機感と使命感とをもって取り組んでいることが印象深かった。その成果が 3.11 東北大震災と原発事故にもかかわらず前年比 3%増の集客という結果だろう。現在の危機感を持続し、全市をあげて現在の活動を拡大・深化させ、「多くの来訪者が訪れる観光地での取組（マストツーリズムのエコ化）」の先進モデル地域となっていきたい。
- ・ マス観光とエコツーリズムを対立的にとらえる発想がいまだ存在することに、我々はむしろ驚いたが、マス観光業者の率直な危惧がいまだ存在することを認識し、エコツーリズムがマス観光地の歴史をもつ地域にあって果たし得る役割を普及していく必要があると感じた。下呂市では今回の講演によって宝探しの意義が理解されたように感じた。
- ・ 各地区の作成したフェノロジー・カレンダーのなかにはイベント・カレンダーの色合いが濃い

ものもあるが、エコツアー・プログラムの充実をはかるなかで、宝探しがさらに進められ、地区の資源のフェノロジー・カレンダーとしての厚みを持つてくることを期待したい。

- ・ ランドオペレーター（エコツーリズム・プロデューサー、コーディネーターなどの名称もあり得るが）の必要性は、下呂市にとどまらない。エコツアーの定常的な催行の実現というステップに進もうとする場合、必ずや直面する課題である。観光インフラの蓄積のあるぶんだけ、下呂市ではこのような機能の必要性の理解と体制づくりが迅速に進むことが期待される。
- ・ 下呂市の各地区は自然、歴史、文化にそれぞれ特色があり、個性が異なる。各地区での宝探しをさらに進め、地区ごとの特色あるエコツアー・プログラムや各地区の宝をつないだプログラムを開発していくことによって、下呂市全体をめぐる観光リピーターの獲得につながることを期待できる。
- ・ 是非、現在の危機感を持続し、全市をあげて現在の活動を深化していき、エコツーリズムによる既存観光地の再生・復活のモデルとなっていきたい。

